アイコクアルファ

RH事業部 RD1G RRDТ

とみお) (さかした

富男さん



「開発は、お客さまの使いやすさを追求することが仕事」 と話す坂下さん

け、スケジュールを立てて行動

おかし

ここでは「自分で課題を見つ

は、単に楽しくというイメージ しく」仕事ができるようになっ けていった。それで「面白おか ではなく、自分が主人公になっ た。同社での「面白おかしく」 いて、坂下さんもそれを身に着 新たな課題を見つける」という て働くということだそうだ。 仕事のやり方を全員が実践して し、結果を出す。その結果から

アイコクアルファ(稲沢市)は、 精密冷間鍛造で自動車部品などを するCF事業部、ラクラクハ ドのRH事業部、精密切削加工 で航空宇宙機体部品などを製造す AP事業部、CAD/CAMシ ステムのMS事業部からなる。R H事業部 RRDT RD1GO 坂下富男さん(63歳)は入社以来、

主に開発一筋で勤めてきた。同社 は退職時期を自分で決める「マイ ライフシステム」を導入しており、 従業員1029人中、119人の60歳以 上が活躍。坂下さんには、今まで 培った技能を生かして後進にも 「面白おかしく」指導を進めても らいながら、新しい物を開発して ほしいという。

经验

かもしれない」と、当時を振り返 学科を卒業した私が配属されたの 要だったので、大学の電気電子工 RH事業部で電気に詳しい人が必 を吊り上げて軽い力で移動させる ラクラクハンドは、重い製品など ド」を製造販売するRH事業部。 ハンドクレーンだ。「今思えば、

だったが、92年に現社名に変更さ に当時はアイコク工業という社名 配属されたのは「ラクラクハン



毎月第2土曜日に掲載

ける人が身近にいなかったので、 で、電気に詳しいのは坂下さんく こは機械構造を開発する人ばかり た。82年、開発の部署に異動。 らいだった。当時、電気について聞 や修理を行うサービス部門で働い

いことを体験する機会の連続

くつも取得した。

それらの開発した技術は特許をい

「いい動きをする」と思うという。

賞している。今でもわれながら

した。1人で取り組んだため したELB型もゼロから開発 96年、荷重センサーを使用 機にするために奮闘中だ。

最初は、ラクラクハンドの点検

独学でラクラクハンドの電気制 」仕事を続け

御を開発していった。

はデジタル制御で人の操作感覚

こだわったのは操作性だ。今

その意識を制御に盛り込む。ラク のは重いなりの動きをするので、 のままに扱える」という制御は難 にくい」と言われてしまう。「意 業者の意思通りではないと「使い は人が操作する機械で、動きが作 進化させてきた。ラクラクハンド が、常に新しい技術を取り入れて ある。いくつもの開発をしてきた 機会が多く、その積み重ねで今が 開発は、新しいことを体験する 例えば、人の手作業では重いも いが、だからこそやりがいがあ

ままに動く」ような制御が開発

<

たが、アナログでも「人の意の

に近いことができるようになっ

目標だった。

り、開発の仕事を続ける意気込み を次の区切りと考え、体が続く限 えた制御が必要になる。 まりにも高速で動かすと、人の意 かすが、仮に200キロの物をあ ラクハンドは重いものを軽々と動 くなる。そのため、人の意識を考 識と掛け離れているので使いづら 歳を迎えたが、勤務を継続。65歳 2018年11月、坂下さんは60

伝えているという
次世代には、基本である「安全」「使いやすさ」を

ラクラクハンドのロゴマーク タイプ (ES-60) という、 にもなっているベストセラー 84年、ラクラクハンド高速

